

今日のトピック 米国の金融政策(2015年6月)

現行の政策を維持、景気判断は上方修正

ポイント1 景気判断は上方修正

物価判断は据え置き

- 6月16日～17日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で現行の低金利政策の維持が決定されました。
- 6月5日発表の5月の雇用統計で、非農業雇用者数が前月比28.0万人の増加となったことなどを受け、景気に対する評価は前回の「成長速度は鈍化」から「緩やかに拡大」へと上方修正されました。物価については、足元のインフレ指標は依然低水準である一方、中長期的なインフレ期待は引き続き安定しているとの判断で据え置かれました。

ポイント2 フォワードガイダンスを維持

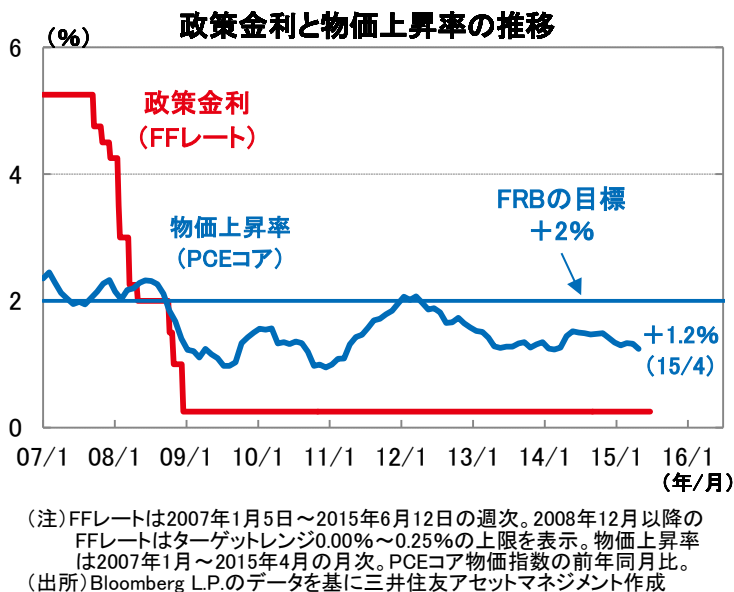
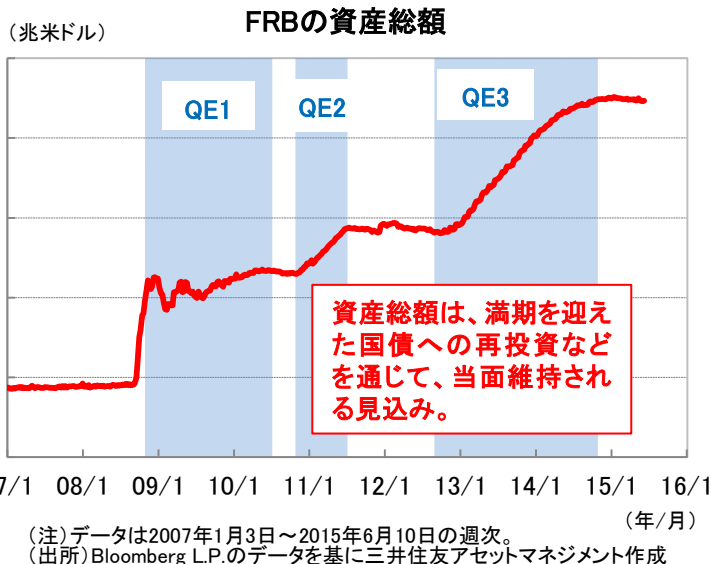
利上げタイミングを慎重に見極め

- 金融政策の先行きを示すフォワードガイダンスについては前回と同様、「労働市場がさらに改善し、物価上昇率が中期的に2%の目標に戻っていくと合理的に確信(reasonably confident)した場合は、フェデラルファンド(FF)金利の目標レンジの引き上げが適切になる」という文言が維持されました。
- 労働市場では失業率が直近5月時点で5.5%まで低下しました。時間あたり賃金や物価は伸び悩んでいますが、これらの指標は景気動向に遅れて動く指標であり、今後の上昇が見込まれます。これら指標を慎重に見極めながら、利上げを決定すると見られます。

今後の展開

利上げが開始されても、その速度は緩やかなものになる見通し

- 年内に利上げが開始される可能性が高まっていますが、5月の雇用統計の上振れや、今回のFOMC声明文の内容を受けて、市場参加者の間では、9月16日～17日開催のFOMCで利上げが決定されるとの見方が優勢になっています。



ここもチェック!

2015年06月08日 米国の雇用統計(2015年5月)
2015年06月05日 米国のISM景況感指数(2015年5月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。